

イニエスタも趣味でハマった 新感覚ラケットスポーツ

Q パデル

人

類史上、最も短期間にプレイヤーを増やしたスポーツ。多くの海外メディアでそう報じられるパデルが、日本でもいよいよ知名度を上げそうだ。

パデルとは、2人1組でネットを挟んでボールを打ち合う、テニスのダブルスのようなスポーツのこと。ワンバウンド以内に相手コートにボールを打ち返すのはテニスと同じ。だが、相手のショットが体の横を通過した場合も、壁に跳ね返ったボールを打ち返せばラリーは途切れない。

「練習はそこそこにして試合を楽しみたい」「挫折せず続けたい」という、遊びなんだから当たり前の欲求にマッチするので、愛好家が増えるのは当然なのだ。

スペインで生まれ約40年。パデ



コートは20×10m＋壁(金網or強化ガラス)。走り回るエリアはテニスの約半分。



ヴィッセル神戸のイニエスタ(写真左から2人目)も愛好家のひとり。



テニス用より小さなラケット。打つ面はガットではなく、穴を開けた板。



DIMEEの読み

ルは今や欧州・南米など78か国で1200万人に楽しませている。Jリーグのヴィッセル神戸に加入したスペインの英雄イニエスタも自分のチームを持つほどだ。日本には2013年に初上陸。今夏には東京・大井町駅近に専用施設がオープンするなど、身近になってきた。日本パデル協会によれば、国内の愛好家人口は約1万2000人。IT企業関係者やクリイターなど、トレンド感度の高い人からハマっているようだ。

新しいスポーツが根づく鍵は「始めやすさ」と「挫折しにくさ」。それらを両立するパデルのポテンシャルは高い。コートの数が増えれば一気に定着しそうだ。

BuzzWord
バズワード